

まえさわ



千葉委員長（左）から看板を引き継ぐ菅原委員長

1月14日、前沢区の平成19年42歳厄年連「天馬飛翔会（斎藤弘顕会長）」の祭典事務所開きが同区七日町の旧絹川書店で行われました。神事に続き、前年度42歳厄年連「桜駿白蛇会」の千葉修司委員長から菅原康弘祭典実行委員長へ、事務所看板が引き継がれました。斎藤会長は「今日という日を心に刻み、今まで以上に心を寄せ合い、春まつりに向け取り組んでいく」と決意を新たにしていました。

4月15日に開催予定の奥州前沢春まつりで主役を飾る天馬飛翔会の会員は、現在週2回、オリジナルの創作演舞「百花繚乱飛翔の舞」の練習に汗を流しています。

春まつりに向けて心新たに
前沢区42歳厄年連が事務所開き

まちの話題



秋篠宮さまが市内にご滞在

研究会議出席のため来市



口之島牛のはく製の前で博物館の職員に質問される秋篠宮さま

秋篠宮さまは、牛の博物館で開かれた研究会議ご出席のため、1月21日から23日まで市内に滞在されました。

研究会議は、1月22日に「ドメスティケーション（家畜化）モデルの構築—博物学の視点から」岩手会議として開かれました。総合研究大学院大学の葉山高等研究センターで特任研究員を務める秋篠宮さまが、初めて代表となって研究をするテーマに関し議論が行われ、23人の研究者の1人として私的に参加されました。

秋篠宮さまが同館を訪問されたのは、開館した平成7年7月以来2度目のことです。12年ぶりのご訪問では、鹿児島県の在来牛「口之島牛」のはく製に強い興味を示されるなど、資料の充実ぶりに感心のご様子でした。

秋篠宮さまは国民宿舎衣川荘に2泊され、23日は胆沢郷土資料館を視察されました。

マーチング全国大会で銀賞

常盤小児童らが喜びの声報告



菅原教育長（右）に報告した児童代表

第34回マーチングバンド・パトントワリング全国大会が1月13日、東京の日本武道館で開催され、東北代表で出場した常盤小学校がマーチング部門小学生の部で銀賞を受賞しました。

1月23日には児童代表らが菅原義子教育長を訪問し、受賞を報告しました。同部門へは全国から29団体が参加。常盤小学校は「信一ひびきあうところ」をテーマに、4年生から6年生までの75人が大舞台で見事な演奏演技を披露しました。

同校は東北代表として6年連続でこの大会に出場しています。

みずさわ

心と心が通じ合う交流続く

農家が宮城の中学校に招かれる

1月20日、おうしゅうグリーンツーリズム推進協議会（佐々木信雄会長）は、農業体験を通じ市と交流を深めている宮城県の塩竈第二中学校（内海幸貴校長、生徒447人）の立志発表会に招かれ、会員14人が参加しました。

同校は平成16年度から、旧衣川村で総合的な学習の一環として農業体験学習を行っており、本年度も昨年9月、2年生159人が市内42戸の農家に宿泊して農村生活を体験しています。

会場では受け入れ農家と生徒の交流も行われ、和やかな雰囲気の中、再会を約束していました。



別れを惜しみ涙を見る生徒

ころもがわ

練習の成果を伸び伸び発揮

子どもたちがミュージカルを熱演



4年生以下の児童による『雪んこ』

いさわジュニアミュージカルスクールと劇団ゆうの合同公演は1月14日、胆沢文化創造センターで開催されました。同スクールは昨年5月に開講。胆沢区を中心に小学校1年から高校1年までの44人が、今回競演した劇団ゆうの指導で約8カ月、延べ35回に及ぶけいこを重ねてきました。

この日上演したのは『雪んこ』（小学校1年から4年まで）と『神父様は大泥棒』（小学校5年から高校1年まで）の2作品。練習の成果を発揮し、伸び伸びと演じた子どもたちに、訪れた約600人の観客から盛んな拍手が送られていました。

いさわ

五穀豊穡を願い男衆が氣勢

伊手熊野神社で蘇民祭

江刺区の伊手熊野神社で1月20日夜から翌日未明にかけ、400年以上の伝統を誇る蘇民祭が行われました。下帯に足袋姿の地元や厄年を迎える男衆ら100人が参加して火たき登り、蘇民袋争奪戦などを繰り広げ、五穀豊穡、無病息災を願いました。

熊野神社の蘇民祭は、黒石寺蘇民祭を手本に始められたといわれていますが、正確な記録が残っていません。人口減少などの影響で昭和35年に中断。45年に保存会が結成され、復活しました。火たき登りで男衆が登る歳戸木（丸太を井げた状に積み上げたもの）は高さ3mを超え、県内では最大級といわれています。



歳戸木の上で氣勢を上げる男衆

えさし